Journal of International and Advanced Japanese Studies 国際日本研究

©2017 Journal of International and Advanced Japanese Studies Vol.9, March 2017, pp. 147-169 (ONLINE)
Master's and Doctoral Programs in International and Advanced Japanese Studies
Graduate School of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

論文

「2ちゃんねる」と「イルベ」電子掲示板を通してみた日韓のヘイトスピーチ現象

Hate Speech between Japan and Korea in the "2 Channel" and "ILBE" Internet Bulletin Boards

金　善映 (Sunyoung KIM)
筑波大学人文社科学研究科　博士後期課程

インターネット空間は新たな文化形成や意見表明の場を生み出すと同時に、集団極化が起こりやすいという、両義性を持つ。特に、こうした集団極化は「ヘイトスピーチ」や「右傾化」につながり、外部に存在する他の対象に向かって噴出されている側面が、日韓両国において共通に見受けられる。近年、日韓両国において可視化されているインターネット掲示板「2 ちゃんねる」と「イルベ」がその例である。「この 2 つのネット右翼サイトは時間差を置いて生まれたが、日本のネット右翼の歩みを見れば、イルベに代表される韓国のオンラインの右翼勢力の未来を垣間見ることができる。このような分析は冷戦後、両国国民の社会・文化的経験が似ていることに根拠を置いているためだ」(週刊京郷 2014)。そこで本研究ではネット右翼サイトとして位置づけられている日本の「2 ちゃんねる」と韓国の「イルベ」掲示板を研究対象として分析する。分析を通じ、「2 ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系において共有される「コード」を読み解くことが試みる。

Internet space creates opportunities for new cultural formation and opinion-sharing but, at the same time, it is also a space where group polarization is likely to occur, and that leads to an ambiguous identity. In particular, "hate speech" and "a right-wing shift" led by extreme group polarization with aggression toward outsiders can commonly be seen in Japan and Korea. The Internet bulletin board "2channel" in Japan and "ILBE" in Korea are examples of this phenomenon in recent years. "Although these two radical right-wing websites have a time gap in their establishment, the Internet extreme right-wing in Japan provides a glimpse into the future of the Korean online right-wing group represented in ILBE. This analysis is based on the similarities in social and cultural trends that the two countries experienced in the post-Cold War era" (*Weekly Kyunghyang* 2014). Therefore, this study analyzes these two representative online Internet spheres as research subjects to decipher the "code" that is shared in the framework of "2 channel" and "ILBE."

キーワード：ヘイトスピーチ　ナショナリズム　2 ちゃんねる　イルベ　KH コーダー
Keywords: Hate Speech, Nationalism, 2Channel, ILBE, KH Coder

はじめに

2000年代に入る頃から日本では電子掲示板「2ちゃんねる」などで、日本社会における文化的他者とされる、在日韓国・朝鮮人に対して差別をあおる言説、いわゆる「ヘイトスピーチ」が目立ち始めた。2015年11月には3年半ぶりの開催となった日韓中首脳会談で最大の懸案であった従軍慰安婦問題をはじめ、歴史認識問題や領土問題に端を発した韓国人や在日コリアンに対するヘイトスピーチが「2ちゃんねる」

電子掲示板で行われ、社会に排外的な風潮が強まるのではないかという懸念も指摘されている。2013年の新語・流行語大賞にノミネートされた「ヘイトスピーチ」なる現象は、年を追うごとに重大なものになっており、社会的な問題として注目を集めている。このような情勢の中、2016年5月13日、参院本会議において、「ヘイトスピーチ(憎悪表現)解消に向けた推進法」が可決され、24日には衆院本会議で全会一致により可決、成立した。

ネット上の民族主義的な発言および発言者を示すヘイトスピーチ現象は、日本だけの話でなく韓国社会全般のナショナリズム強化現象としても議論されつつある。近年、韓国の2ちゃんねると言われる「日刊ベスト貯蔵所(以下，イルベ：2010年開設)という電子掲示版が注目を集めている。ニールセン・コリアン・クリック(Nielsen Korean Click)によると、「イルベ」電子掲示板の2015年4月パソコン(PC)基準純訪問者(Unique Visitor：UV)数は、130万6365名に達し、モバイル基準純訪問者数は173万2420名を記録した。そして、月間総ページ・ビュー(Page View：PV)数は、2億6017万となり、全体のコミュニティー分野の中で2位を記録した。当初は単なるユーモア・サイトだったが、今では5.18光州民主化運動が激しかった地域の１つである全羅道地域をはじめ、左翼、北朝鮮、女性へのヘイトスピーチなどで社会的な議論の中心に立っている。

ならば、2000年以降、日韓両国のインターネット・コミュニティーにおいてリベラルなものが人々の感情を吸収できなくなった背景には何があるのだろうか。また、逆に、なぜこの時期に極右志向の思考が彼らを惹きつけたのだろうか。たとえば、2000年代中盤までリベラルの色彩を帯びてきた韓国のインターネット・コミュニティーが、2010年以降、徐々にリベラルの色彩が薄れ、一方日本では、戦後民主主義が日本のネット右翼層の愛国心を吸収できなくなった。また、思春期・青春期にバブルの崩壊やアジア通貨危機を経験した若者たちの右傾化が目立つようになったという(高原 2006, 安田 2012, Kang 2013)。なぜ、こうした層が極右志向の思考へと走ったのだろうか。日韓両国の社会においてこれらの極右サイトの思想と行動をどのような文脈で理解すべきかについても考える必要がある。

そこで、本研究の目的はこのような現状に着目し、日韓両国の社会問題の一つと言われるようになった、いわゆるヘイトスピーチ言説を事例に、これを生み出す要因を明らかにすることである。ネット空間におけるヘイトスピーチの問題は本来の意図を離れて大衆にとって重要な争点となり、ひいては社会的問題として浮き彫りになっているため、欧米の研究者の間でも大変注目されているテーマであるが、議論の流れやその要因について解明した研究は管見の限り見当たらない。本研究では、ネット右翼的な掲示板の形成土壌となる日韓の社会構造と問題点を指摘し、さらに日韓両国が対立する差別と偏見の問題を超え、「共生」を構築するための重要な示唆を与えることができると期待される。

１．先行研究の考察

先行研究を考察するにあたり、まず、本論文におけるヘイトスピーチの定義を行う。ヘイトスピーチの定義に関して、「ヘイトスピーチとは、広義では、人種、民族、国籍、性などの属性を有するマイノリティの集団もしくは個人に対し、その属性を理由とする差別的表現であり、その中核にある本質的な部分は、マイノリティに対する「差別、敵意又は暴力の煽動」(自由権規約二〇条)、「差別のあらゆる煽動」（人種差別撤廃条約四条本文）であり、表現による暴力、攻撃、迫害である」(師岡 2013:48) という理解が一般であるが、堀田(2014)はヘイトスピーチの定義を人種、民族、宗教、性などによって限定するだけでは不十分であると述べながら、次のような注意をも加えている。

> もし、人類、民族、宗教等でしか限定しないとすると、たとえば、在日朝鮮人に対するヘイトスピーチを非難し、罵倒するカウンター側の表現に対する「日本人差別」とか「日本人に対するヘイトスピーチ」などという表現を批判することはできなくなる。ある表現がある人々に対する敵意や憎悪およびその扇動の表現であるとする際に、単に人類等でその「標的」を限定するだけではなく、さらに、対象となる人々が、当該社会で歴史的にまたは現在において「マイノリティ」であるという文脈(context)が必要だということを示唆している。また、ある種の人々に対する「敵意の扇動」であると言うために、発話者の意図は必要条件ではないということを示唆している。(堀田 2014:2)

本研究では、堀田(2014)のヘイトスピーチの定義を参考にして研究を進めた。本研究の分析対象である「2ちゃんねる」掲示板では在日コリアンを「チョン」、「イルベ」掲示板では5.18光州民主化運動の犠牲者を「ガンギエイ」と呼んでいる。日韓両掲示板において彼らは、マイノリティとしてヘイトスピーチの対象となってきた。こうした日韓両掲示板で現れているヘイトスピーチの対象を、人種、民族、宗教、性などに限定して捉えることだけでは不十分であると考えられる。なぜなら日韓両国社会におけるヘイトスピーチ現象は、当該社会の歴史や社会的文脈の中で生まれたマジョリティとマイノリティの間で起きているためだ。

まず、日韓両掲示板においてヘイトスピーチ現象が生じた背景について、これまでの先行研究の流れを概観した上で、これらの研究の意義や限界を踏まえて研究課題を設定する。2000年以降の日本のヘイトスピーチの標的は韓国、北朝鮮、中国であった。特に、ネット上で嫌韓の流れが出来上がった事件としては、2002年の日韓ワールドカップが挙げられる。2002年の日韓ワールドカップの当時、日本のメディアの中で韓国への批判は一種のタブーとなってきた。それゆえ、メディアに対して何かしらの抗議をしようとする動き(「湘南ゴミ拾いOFF」と呼ばれる抗議行動)が当時の「2ちゃんねる」掲示板上で発生した。次に、2002年9月に小泉純一郎首相(当時)が北朝鮮の平壌を訪問した際、金正日総書記(当時)が日本人拉致の事実を公式に認め、謝罪した。それ以来、日本では反北朝鮮色を鮮明にし、いわゆる激しい北朝鮮バッシングが始まった。ネット上で対中感情が悪化の一途を辿っている背景には、尖閣諸島といった領土問題や中国脅威論の浮上などが挙げられる。最近の研究では、ヘイトスピーチの攻撃対象を在日コリアンに偏っているという報告がある(樋口 2015)。この報告によると、2013年5月に在日特権を許さない市民の会 (以下、在特会)がホームページ上で実施した投票結果で、78%が韓国を「一番嫌い国」と回答し、続けて12%が中国、4%が北朝鮮であることが明らかにされている。

では、ヘイトスピーチの攻撃対象が在日コリアンに限定されたきた背景には何があるのだろうか。多数の先行研究では、その論拠として、特別永住資格、朝鮮学校補助金交付、生活保護優遇、通名制度という「在日特権」が在特会をはじめとする排外主義運動で最も重要な言説となってきた点が挙げられる(安田 2012, 樋口 2014, 野間 2015, 山崎 2015, 小倉他 2016)。その上に、「在日特権」という物語は神話あるいはデマに過ぎないという認識が、これらの研究の共通した見解であった。「在日特権」が論じられる際、よく取り上げられているのが「特別永住資格」である。「特別永住権」とは、平成3年(1991年)11月1日に施行された、「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」(平成3年法律第71号。以下「入管特例法」) により定められた在留の資格のことを言う。具体的には、日本国籍を離脱した者(在日韓国人・朝鮮人・台湾人出身者で、1945年9月2日以前より日本に在留する者と、その子孫)に対して日本での永住を認め、一般の永住資格と異なり入国審査時に顔写真の撮影や指紋採取が必要なく、証明書の携帯も求められない資格である。「特別永住資格」を付与した背景では、サンフランシスコ講和条約発効(1952年)により、これまで日本国籍を有していた旧植民地出身国者である韓国人・朝鮮人・台湾人は、自身の意思に関わらず自動的に日本国籍を離脱させられ、事実上無国籍状態に置かれることになった。それ以降、日本国籍を離脱させられた在日韓国人・朝鮮人・台湾人の法的地位の安定化を図る為、日本政府が様々な試行錯誤を繰り返し生まれたのが「特別永住権」である。前述した内容から「特別永住資格」は、歴史的経緯や時代的文脈から生まれたということがわかる。多くの先行研究では、こうした経緯にもかかわらず、在特会をはじめ、インターネット上では在日コリアンが一般的な外国人の永住資格とは異なり優遇措置を受けているという流言飛語的な主張が飛び交ったと指摘している。

次に、ヘイトスピーチが生じる社会的要因については、大きく二つの流れに大別できる。

一つの流れについて、最近の樋口(2014)、山崎(2015)、小倉他(2016)の研究では近隣諸国との「歴史修正主義」から在日特権という物語やヘイトスピーチ言説が生まれたという見解を示している。まず、樋口(2014)の研究では、今や大規模な移民や難民受け入れの問題でヘイトスピーチ現象は世界的に広く見られる現象であり、在日コリアンが日本社会においてヘイトスピーチの標的となってきたことについて着目した。樋口はこうした現象を解明するため、在特会をはじめとする排外主義運動の活動家に対する聞き取り調査を実施した。彼は在日コリアンへのヘイトスピーチ現象を「日本型排外主義」と命名し、以下のように解説している。

日本型排外主義とは近隣諸国との関係により規定される外国人排斥の動きを指し、植民地清算と冷戦に立脚するものである。直接の標的になるのは在日外国人だが、排斥感情の根底にあるのは外国人に対するネガティブなステレオタイプよりむしろ、近隣諸国との歴史的関係となる。その意味で、外国人の増加や職をめぐる競合といった外国で排外主義を生み出す要因は、日本型排外主義の説明に際してさしたる重要性を持たない。（樋口 2014：204）

次に、山崎(2015)は、「歴史的文脈」がマジョリティとマイノリティを規定する重要な要素であると指摘しながら、以下のように解説している。

〈マジョリティ＝強者＝日本人/マイノリティ＝弱者＝在日朝鮮人〉を攪乱・無効化する言説実践であった。その際の要となっているのは、日本と在日朝鮮人との歴史的関係を無視した形で「議論」を提起することである。たとえば、在日特権としてやり玉に挙げられる通名制度や、生活保護受給率などは日本の植民政策およびその後の対応の不適切さに由来するものであるが、その歴史的経緯を無視することで「在日特権」というイメージがつくり出されているのである。すなわち、現代日本での排外主義勢力によるヘイトスピーチを可能にしている土台となっているのは、意識的/無意識的な歴史否認論(歴史修正主義)である。（山崎 2015：70）

上述した論議から、ヘイトスピーチ言説が生じる背景と関連し、近隣諸国との歴史的関係ということが重要な要因であることが示唆された。

もう一つの流れは、1990年代以降高度経済成長期の安定的な社会構造が喪失したことによる雇用不安や労働条件の悪化、所得格差、将来不安といった要因によるものである(高原 2006, 安田 2012)。高原(2006)と安田(2012)は「在日特権」という物語と関連し、「不安要因説」や「生きづらい社会」仮説を中心にヘイトスピーチ言説の背景を考察している。在特会などの団体やヘイトスピーチをする人を長年取材してきた安田は在特会が主張する「在日特権」は「特権」というよりは、「在特会やその賛同者が従来の制度を思いっきり拡大解釈した上で、彼ら独自の見解や根拠の怪しいデータを付け加えた、いわば彼らが後から、「発見」したものといったほうが正解だろう」(安田 2012:210)という見解を示した。

また、ネット事情に詳しいフリーライターの渋谷哲也の言葉を安田の『ネットと愛国』(2012)から引用すると以下の通りである。

今世紀に入ってから非正規労働者の割合が急増した。正社員の座をめぐる過酷な椅子取りゲームが始まったわけです。椅子が余っている時代であれば外国人のことなど気にはならないし、寛容でいることもできました。しかし椅子の数が少なくなれば、まず、椅子に座るべきは日本人からだろうといった声が出てくる。それがいつしか外国人は出て行けという罵声にも変わる。（中略）ネット言論では早い時期から在日コリアンが攻撃対象とされてきました。それは歴史的な経緯だとが、あるいは直接的な被害をうけたことからくる憎悪なんかではなく、「守られている」「保護されている」といった勝手なイメージが、いわゆる「在日叩き」を生み出してしまったのです。(安田 2012:349-350)

こうした渋谷の指摘から、グローバル化の進行や競争の激化、経済格差の拡大などにより、社会の周縁に追いやられてきた人々が自己不全感と鬱積する不満のはけ口を「在日叩き」という形で現したという論点が読み取れる。安田は、渋谷の指摘を加え、在特会の過激な言動の背景には、「タブー破りの快感」であると同時に「所属の欲求」や「誰かに認められたい」という「承認欲求」が根底にあるという。中でも「タブー破りの快感」について、安田は、経済生活の不安さ、政治体制に対する不安さによって何かを「奪われた」と考える人達には、しっかり守ってくれたと確信していた既存の価値観や常識が単純な権威に過ぎないものとみなされたと説明した。しかし、安田の研究から、なぜ在日朝鮮人がヘイトスピーチの標的となったのかについての説明が十分だとは言い難い。これは、他国の社会にも見られ、例えば、イギリスではユーロ危機をきっかけに、移民排除することを目的とする極右勢力の台頭が目立った現象と同様の傾向を示しているためである。

次に、ヘイトスピーチ現象と関連する、韓国の先行研究はそれほど多くない。韓国のインターネット・コミュニティーは2000年代中盤までリベラルの色彩が強かった。Park(2013)は、「2002年の盧武鉉ブー

ム、2004年の弾劾政局、2008年の狂牛病蝋燭デモの当時、インターネット・チャルバン(コメント入れ画像)は、既成政治権を戯画化すると同時に、若くリベラルなネットのユーザーの政治的価値を表現するのに有効な媒体であった」(Park 2013:59)と指摘している。しかし、2010年、「イルベ」掲示板が登場して以来、極右傾向の強いインターネット・コミュニティーが注目を集め始めた。「イルベ」掲示板の誕生は、これまで目立たなかった保守傾向のコミュニティーが世に出たという含意もあるが、韓国社会に蔓延している現象と同時に、一連の議論と言説作用をもたらしている「問題のある」サイトとして受け取られている。2016年4月30日、デーリー韓国では「ヘイトスピーチ言説が溢れているイルベは国内のヘイトスピーチの元凶」という記事を掲載した。このように「イルベ」掲示板は、社会現象または社会問題として公論化され始めており、最近2-3年前からヘイトスピーチ言説に関する研究が進められてきた。

Kim(2014)によると、「イルベ」掲示板ユーザーは自分たちを善意の被害者と位置づけており、加害者たちは一種のエリートあるいは特権階層であるという。ここでの加害者たちは、軍隊に行かない女性、米の支援を受けながらミサイル実験や核実験で脅かす北朝鮮、5.18光州民主化運動(1980年)とセウォル号惨事(2014年)の犠牲者や遺族たちなどとなる。「イルベ」掲示板ユーザーからみると、彼らは国家の税金あるいは補償金で贅沢をしている集団、かつ韓国社会を分裂させる集団となるのだ。Kim は、ヘイトスピーチ言説が生じる社会的要因と連関し、韓国社会で「IMF 危機」以降に拡散された新自由主義の不安定な経済構造の中で多くの青年層が、社会から落ちこぼれたり、排除されたりする現実を指摘している。

次に、Na(2016)の研究においても、ヘイトスピーチ言説の背景を2000年代以降、韓国社会が露出している構造の問題を中心に考察している。

> 金大中・盧武鉉政権(1998-2008年)から李明博・朴槿恵政権(2008-現在)と続いてきたこの時期は、経済的、社会的には新自由主義的な変化が、政治的には政権交代が行われ、これまで既得権を奪われた保守派のイデオロギー攻勢が影響を及ぼしている時期と見受けられる。労働柔軟化と7次教育課程、大学の変化が本格化することにより、大衆には、いわゆる、「新自由主義的自己啓発」を内面化することが求められてきた。また、金大中政権の太陽政策と盧武鉉政権の4大改革立法の試行は保守の結集とニューライトの登場に決定的な影響を及ぼした。(Na　2016:16)

また、Na は、自分たちが十分に自己啓発を通じて一生懸命に頑張っているにも関わらず報われないといった、自嘲混じりの声がヘイトスピーチの対象に向かっていると指摘している。

以上の内容をまとめると、2000年代を基点として日韓のネット上でヘイトスピーチ現象が台頭し、これを受け、ヘイトスピーチ現象を生み出す背景に着目した研究が多数生まれた。しかし、樋口(2014)、山崎(2015)、小倉他(2016)を除いた多数の先行研究では、ヘイトスピーチ現象と関連し、「不安要因説」と「生きづらい社会」仮説を中心にヘイトスピーチ言説の背景を考察しているため、ヘイトスピーチ現象を多面的に探り出せないという限界があり、ネット上におけるヘイトスピーチの現象や極右主義現象に関する日韓間の比較研究はほとんど行われていないという状況である。最近の報告では、日韓両国におけるネット右翼の平均年齢層が30代男性ということが明らかになった(古谷　2013,　東京ブレイキング・ニュース　2015,　東亜日報　2013)。なぜこの世代がネット上で保守的、国粋主義的な意見やヘイトスピーチを正当化させる言説を流布しだしたのかについて、日韓両国の社会政治的視座を視野に入れながら、ヘイトスピーチ現象を分析した研究は、未だ十分になされているとは言い難い。

本研究では、日本の「2ちゃんねる」掲示板と韓国の「イルベ」掲示板において、主に現れているネタと他者化されている対象を調べる。次に、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系において共有される「コード」(code)、つまり、これらの掲示板の思考体系を動かす「心理的なメカニズム」が何かを考察していく。本研究において、「コード」という概念が重要な意味を帯びる。「コード」という概念は、辞典上で複数の意味を持っているが、ここでの「コードとは、現にそこに存在するものを不在の単位と結び付ける…背後に存在する規則に基づいて…意味作用が成立するのである」(エーコ　1980:10)。同様に、Park, Jung-Sun(2009)も「コード」を「一定の規則により支配される記号体系または、意味作用の体系として、その規則は、それを従っている文化の構成員の間で暗黙的または明示的に共有されること」(Park 2009:215)と定義している。すなわち、「コード」とは人々が無意識のうちに共有している暗黙の規則体系を指す。このような正義を記号学の観点からみると、私たちが他者に向けて発するメッセージには、最初の意味作用に関係する「デノテーション(denotation)」(直接的・明示的意味) と、二つ目の意味作

用に関係する「コノテーション(connotation)」(随伴的・潜在的意味）という意味作用の二重構造を持っている。例えば、大量生産や大量消費、大量廃棄で運営される現代の消費社会をロラン・バルトの記号論によって捉えると、自由・繁栄・幸福を実現する消費活動は外見上のデノテーションであるが、高度消費社会の繁栄の背後には労働搾取、人間性の喪失、環境破壊、貧富格差、女性差別というコノテーション、つまり現代の消費社会の支配「コード」が潜んでいる。このような点から、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板上で他者に向けて発するメッセージや交わす談論の中には外見上ヘイトスピーチ言説(デノテーションで)のように見えるが、そのメッセージの中には構成員の間の価値体系または行動様式が内包されており、これが「2ちゃんねる」と「イルベ」の「コード」(コノテーション)となる。ここにおいて「コード」は憎悪言説の要因と、極右傾向の考え方の根底にある問題を解き明かし、ひいては「2ちゃんねる」と「イルベ」の思想を理解する上で重要なキーとなり得る。

そこで、以下のリサーチ・クエスチョンを設定し検討を進めていく。

リサーチ・クエスチョン1：日韓の両電子掲示板において顕著に現れている「ネタ」は何であり、その中で不満のはけ口は誰に向かっているのか。

リサーチ・クエスチョン2：日韓両国においてヘイトスピーチ現象を生み出す要因と共に、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)、つまり「心理的なメカニズム」は何か。

２．分析方法

（１）分析対象

本研究では「2ちゃんねる」掲示板と「イルベ」掲示板を対象とする。まず、日本の研究分析の資料として、「2ちゃんねる」掲示板の中でも、「ハングル板」を分析対象として選定した。「2ちゃんねる」掲示板の中、「ハングル板」と「東アジア news+板」はヘイトスピーチや嫌韓厨の論調が蔓延している板としてよく知られている(Kim 2011, Park,Su-Ok 2009)。「東アジア news+板」はキャップを持つ記者(☆が投稿者名の尾に付いている記者)のみがスレッドを立てられるという特徴があることから、本研究の分析対象から排除した。

「ハングル板」は2000年1月18日に開設し、開設当時は「韓国・朝鮮板」であった。「ハングル板」の特徴は大きく分けて三つの特徴がある。第一に、カテゴリは「学問・文系」に含まれており、板名から考えれば、韓国語(朝鮮語)に関する学問的な見地から議論をする板と思われる。しかし、語学的なテーマのスレッドはわずかで、全体的に韓国や北朝鮮やその国の人々(在日コリアン含む)の行動を非難する書き込みが溢れている。また、日本のメディアやマスコミでタブーとされてきており、ほとんど取り上げ論じたことがなかった、韓国起源説問題、竹島の領土問題、反日を国是とする韓国とそれに呼応する国内の反日政治家・マスメディアを主に扱っている。一例としていわれる余命スレという余命三年時事日記について語るスレがある。余命三年時事日記(2015)とは、余命三年を宣告されたブロガーが、残された人生をかけて、左翼や在日に関する様々な問題を暴露した内容が書籍化されたものである。第二に、「ハングル板」では、スレッドと書き込みは誰でも立てることができる。第三に、開設当初から10年以上継続しているスレが存在するほど、固定スレが多いので、前スレに続いて書き込みを行う場合も多いことが挙げられる。上述した三つの特徴から、本研究では「ハングル板」を分析対象として選定した。

韓国側の資料としては、「イルベ」掲示板の中、「政治日刊ベスト板」を分析対象として選定した。「政治日刊ベスト板」は、左派支持率の高い全羅道、左翼などが常に叩きネタとされているため、本研究ではこれを選定し分析を行った。

（２）分析期間

2015年10月25日から11月14日の期間のスレッドを「過去ログ倉庫」から収集した。この期間は韓国のソウルで日韓中首脳会談が開催されており、日韓間での最大の懸案の一つである慰安婦問題をはじめとする領土問題や歴史問題などが取り上げられた。この週と重なってネット上で特定の対象(個人、団体)の話題で膨大な「書き込み」(レス)が殺到する、いわゆるネット上の「祭り」が起こった。これは日韓中首脳会談の談論が政治家やメディアだけではなく、ネット右翼層にも重要な懸案であることを如実に

示した。書き込み数のランキングによると、2010年1月から2016年6月までの期間で「東アジア news+板」のレス数が最も多かったのは、2015年11月1日から11月7日まで(平均値30,912件)であり、スレッド数(平均値68件)も他の週間より多いことが判明した[1]。「東アジア news+板」における「祭り」現象は、キャップを持つ記者によるゲートキーピング(gatekeeping)が影響を及ぼすのではないかと考えられる。換言すると、キャップを持つ記者はアジェンダ・セッティングを担う者として、「2ちゃんねる」ユーザーの重要な争点の認識に影響を与えるとも見受けられる。それでは、キャップを持つ記者のみスレッドが立てられる「東アジア news+板」と誰でもスレッドが立てられる「ハングル板」において表象された「ネタ」にはいかなる差を示すだろうか。また、誰でもスレッドが立てられる「ハングル板」においても日韓中首脳会談の談論が重要な争点として浮き彫りになるのだろうか。本研究ではこのような問に答えるために、「ハングル板」の分析時期を「東アジア news+板」で「祭り」現象が起こった週(2015年11月1日から11月7日)を基軸にして、その前週と翌週を含んだ2015年10月25日から11月14日の期間で設定した。次に、「ハングル板」では多様なトピックを扱っており、嫌韓的な言説を扱っているスレッドである、「余命三年時事日記」、「韓国経済動向」、「高木大姐研究」などを中心にデータを収集した。スポーツ、芸能等のスレッドを除外し、22個のスレと12,153個の書き込みを分析対象とした。

韓国側の資料としては、「イルベ」の掲示板における「政治日刊ベスト板」を分析対象とした。分析時期を設定するにあたって、前述した「2ちゃんねる」掲示板とは異なるアプローチを用いて分析を行った。「イルベ」掲示板は「2ちゃんねる」掲示板に比べ開設時期や歴史が短く、「イルベ」掲示板を対象として、特定の対象(個人、団体)の話題で膨大な「書き込み」(レス)がある週間のいつ頃最も殺到したかを示す、いわゆる週間「祭り」ランキング調査が現在までのところ、行われていない状況である。本研究では、ユーザーから推薦数が多いスレに着目し、分析を行った。推薦数は各板の右横に赤い色で表示されている。ユーザーから最も推薦を受けていたスレは、最上位に自動並べ替えが行われており、順位が更新されるたびに自動的に並べ替えられる。スレの右横に推薦数値が多ければ多いほど、ユーザーから「イルベロ」ボタンを最も多く押されたことを意味する。換言すると、「他のユーザーもそのスレについて共感している」とか、「いいね！」をするということを意味する。ここにおいて、ユーザーから推薦数が多いスレは、ユーザー間でどのようなネタが最も多く消費され、共感されているかを把握するだけではなく、ユーザーの思考体系が読み取れる有効な指標だと言える。そこで、「政治日刊ベスト板」でもより多くのユーザーに推薦数を受けた上位22個のスレと16,480個の書き込みを分析対象とした。

（３）分析方法

本研究では研究方法としてテキストの計量分析を採用しており、そのため無料公開ソフト「KH Coder」を使用した。また、集まったデータに対して量的分析と質的分析の2つの方法を用い、量から質の順で分析するミックス法を採用した。量的分析と質的分析をミックスする手法とは、両者の利点を活かし、分析の妥当性と信頼性においても非常に有効であることが実証されている。質的研究とは、「現象の新たな側面を発見したり、実証的なデータに基づいて新たな理論を生み出したりすること」(フリック 2002:9)を目的とした研究方法である。本研究では、共起ネットワーク分析の結果から得られたデータだけではテキストデータの文脈を明らかにすることができないことから、このアプローチを採用した。

量的分析として用いたのは「共起ネットワーク」である。本研究における出現頻度が高い語と共起する確率が高い共起関係による結果は、最終的な結果ではなく、あくまでも質的分析に入る手がかりとして使用するということを強調しておく。分析を進めるにあたって、半角文字のチェック、複合語のチェック、辞書未登録用語のチェックをし、「タグ」として登録した。強制抽出する語の指定では「タグ」という特殊な品詞名が与えられる。KH Coder は語を確認するための辞書を内部に持っているが、強制的に抽出した語として指定した、「慰安婦」「少女像」「南シナ海」「人工島」「安倍晋三首相」「朴槿恵大統領」のような用語は、そこに含まれていない場合がある。したがって、一度形態素に分けた結果を参照にしながら、正しく抽出されていない用語を集めて、強制的に抽出すべき語として登録した。

次に、本研究における分析の妥当性(validity)と信頼性(reliability)を高めるために、本研究では質的分析として、「ハングル板」と「政治日刊ベスト板」における膨大な書き込みを分析した。これは、ユ

[1] http://merge.geo.jp/history/count7r/?date=2015-11-01&mode=r

ーザーの行動に潜む心理的なメカニズムを解き明かすことができると考えられる。最後に、その結果を踏まえ、さらに質的分析を行った結果として、今回対象とした期間で繰り返し見られた表象について、当時の時代背景や先行研究の知見から考察した。

3.　研究結果

（1）「2ちゃんねる」掲示板の「ハングル板」における主なネタ

本研究では、日韓の両電子掲示板において顕著に現れている「ネタ」が何であり、その中で不満のはけ口は誰に向けられているのかということをリサーチ・クエスチョン1とした。ここでは、共起ネットワーク分析結果から、リサーチ・クエスチョン1の検証を行う。まず、「ハングル板」における共起ネットワーク分析の結果は図1[2]の通りである。図1をみると、3年半ぶりに開かれた日韓中首脳会談をめぐる当座の問題や、在日朝鮮人に対するトピックが大きな位置を占めていることがわかる。その他、日韓・日中の間でのユネスコ世界遺産登録をめぐるトピックと通貨スワップなど経済問題に関するトピックが取り上げられていたことがわかる。

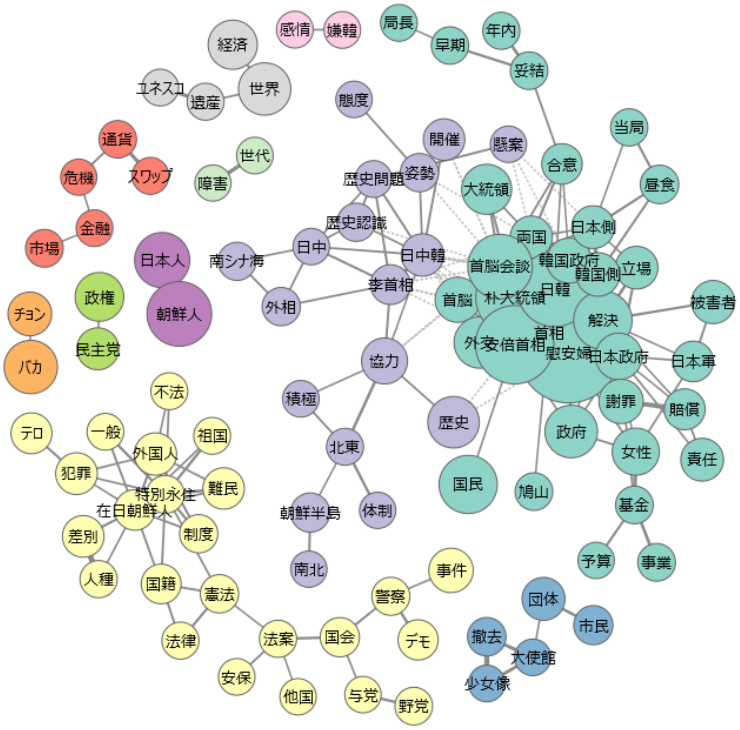


図1 ハングル板における共起ネットワーク

以上のように共起ネットワーク分析からもある程度主なネタをうかがい知ることができるのだが、より詳細な分析のために、共起ネットワークが強く結びついている部分を5つのグループに分類した。

グループ1は「首脳会談」に関するネタを形成している。日韓最大の懸案である「慰安婦」は出現頻度の多い語句として大きいバブルで描画されており、この語句を介して多くの語句につながりがあると分かる。今回の首脳会談で両国は旧日本軍による従軍慰安婦問題の早期妥結を目指して協議を加速させることで一致したため、共起ネットワークで「合意」「妥結」「年内」「早期」「解決」「日本政府」「謝罪」「賠償」「責任」という語句が特徴的に表れていた。次に、「女性」「基金」「予算」「事業」という語句も目立っていた。今回の首脳会談当時、慰安婦の補償などが法的に解決済みでも、人道的な見地から様々なフォローのあり方は可能だということに含みを残していた。元慰安婦に償い金を支給したアジア女性基金が2007年に解散した後も、外務省が年間1500万円の予算をつけ、韓国や台湾などの元慰安婦に支給するという内容である。こうした議論を受け、「女性」「基金」「予算」「事業」という語句が描かれていたと考えられる。他に注目すべき点として、慰安婦を少女像と切り離して独立して配置されていること

[2]本研究では、最小出現数を 30 に設定し、リンクを Jaccard 係数 0.1 以上の共起関係とし、分析を行った。

が挙げられる。今回首脳会談で、安倍首相が少女像の撤去を要求し、「少女像」は「撤去」「大使館」「市民」「団体」という語句とつながっていることから、ソウルの日本大使館前に設置されている、いわゆる従軍慰安婦問題を連想させる少女像(少女のブロンズ像)をめぐる問題が、この時期議論されていたことがわかる。少女像をめぐる問題は首脳会談が終了した後でも取り上げられているため、独立したクラスタを形成していたと考えられる。第二に、「南シナ海」「李首相」「日中」「外相」などが特徴的な語句として表れていた。最近アジア太平洋地域の安全保障問題として浮上した「南シナ海」問題は、今回の首脳会談においても最大の懸案の一つでもあった。これを受け、「ハングル板」においては、南シナ海に対する中国の領有権主張や人工島の建設をめぐる問題が取り上げられていた。第三に、「昼食」という語句が目立っており、共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。韓国側は日本政府が求めた会談後の昼食会開催を拒否した事と関連して、ネットユーザーから興奮の声が漏れていたことがわかる。

日韓首脳の昼食会が見送られたことについて、次のような書き込みを寄せた。

・今朝の朝日によると今回の会談は韓国に振り回された上に、日本から希望した昼食も拒否されたことになってるそうな。日本を翻弄するだなんて、朴大統領は凄い外交巧者だったんだね。
・中国の李首相よりも冷ややかな待遇で迎えそうだ。
・予想するに今回の冷遇っぷりは、日本外交の歴史に残る１ページとなるでしょうね。

(「2ちゃんねるのハングル板」)

首脳会談後の昼食会を行わないとしたことについて、ネットユーザーは大きく反応しており、特に安倍首相が中国の李首相に比べて冷遇されているという論点が読み取れる。

グループ2は「在日朝鮮人」に関するネタである。「在日朝鮮人」という語句を中心として、「特別永住」「人種」「差別」「国籍」「制度」「犯罪」「不法」「難民」など多くの語句とのネットワークを有している。ここで、注目したいことは、「特別永住者」という語句を使い、「在日朝鮮人」のイメージが表象されていたという点である。在特会が在日朝鮮人に対してヘイトスピーチをする際、しばしば俎上に載せられる議論に、特別永住者制度の議論がある。「2ちゃんねる」掲示板上においても「特別永住」という語句が特徴語であることを考慮すると、「特別永住」という物語はヘイトスピーチを煽る物語として根深く位置づけられていたということが読み取れる。同様に、在日朝鮮人を卑下する際、よく使われる「チョン[3]」という語句が「バカ」と共起ネットワークが見られた。

グループ3は「ユネスコ」に関するネタである。「ユネスコ」「遺産」「世界」などの語句が目立っていた。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認してみた。ユネスコ(国連教育科学文化機関)による「明治日本の産業革命遺産」を世界文化遺産に登録する過程で韓国や中国から反発を受けて以来、「2ちゃんねる」ユーザーから袋叩きになっていた。朝鮮人強制労働問題をめぐる日韓間の確執が浮き彫りになった時点は2015年7月であったにもかかわらず、ネチズンの怨嗟の声は収まらず、嫌韓ムードが一層広がったということが読み取れる。

グループ4は「経済」に関するネタである。「金融」「スワップ」「危機」「通貨」という一連の語句がつながっている。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認したところ、この時期に全国経済人連合会(以下、全経連)と日本経団連が日韓通貨スワップの再開問題を含めた両国の経済協力案を議論したことがわかる。全経連が日本側に求めた「日本通貨スワップ再開」に対し、2ちゃんねるの「ハングル板」では、次のような書き込みが相次いでいた。

・今さら虫がよすぎるのではないか？
・断固拒否すべきだ。
・韓国が慰安婦問題や竹島・独島問題などで対日強硬姿勢を続けているのに、困ったときにだけ日本に泣きついてくる姿勢に正直、あきれかえった。

(「2ちゃんねるのハングル板」)

[3] 「チョン」という言葉は、在日韓国・朝鮮人に対する蔑称である。「チョン」は「チョンコ」「チョン公」などと同一視されて使用されている。

グループ5は「世代」は「障害」という語句と共通するグループを形成していた。関連特徴語を参照しながら書き込みを見ていく。首脳会談が開かれた時期に日本の安倍首相と鳩山元首相が相次いで訪韓した。民主党の鳩山元首相は、韓国・ソウル大学で「日韓国交正常化50周年に日韓関係を再び見つめ直す」というテーマで特別講演を行った。講演会での鳩山元首相の発言が2ちゃんねるの「ハングル板」で話題を呼んでいた。2015年11月5日の講演会で鳩山元首相は安倍首相が8月に発表した戦後70年談話にも触れ、「安倍首相は反省と謝罪について繰り返し言及しながらも、自ら反省と謝罪の気持ちを伝えていない」と批判する一方、「敗戦国は、戦争の被害に対し事実上『無限責任』を負う」とした内田樹氏の言葉を引用し、「安倍政権は慰安婦問題などについて、この言葉を心に留め、応じることができる方法を講じなければならない」と力説した。鳩山元首相の発言と関連し、2ちゃんねるの「ハングル板」では首脳会談の当時安倍首相の発言を引用しながら、鳩山元首相に対する強い不信感を抱いたレスで溢れかえった。今回の首脳会談の際、安倍首相は慰安婦の問題について、「未来志向の日韓関係を構築する上で、将来世代に障害を残すことがあってはならない」と表明した。二人の首相の発言について、「相次ぎ訪韓した安倍首相と鳩山元首相―将来に禍根残すのはどっちだ？」とコメントをつけた。また、別のユーザーは次のようにコメントを寄せた。

> リップサービスのようにも聞こえるが、本人は心から反省の意を込めて語っているのだろう。韓国の聴衆は安倍首相の主張を塗り替え、修正するような言葉に「やはりそうか。安倍は間違っているのだ」と安心、納得したような表情を見せていた。鳩山氏が韓国で何を話そうが、それは基本的に鳩山氏の自由だ。しかし、韓国側が主張する歴史認識に一方的に同調する鳩山氏の発言は、日本に反省を求め続ける韓国世論を勇気づけ、火に油を注いでいるかのように映る。安倍首相が言ったとおり、「将来世代の障害にならないように」しなければならない。現首相と元首相がソウルで発した言葉。どちらが将来の世代に禍根を残すことになるのだろうか。
>
> （「2ちゃんねるのハングル板」）

現在の日韓関係をめぐって鳩山元首相の一連の発言が2ちゃんねるの「ハングル板」で批判的に議論されていることが読み取れる。また、「民主党」と「政権」が独立したクラスタを形成している。「ハングル板」では「民主党」の出現頻度が他の政党より相対的に高く表れていた。2ちゃんねるの「ハングル板」において民主党がどのように表象化されているのかについては後述する。

これまでの分析結果を通じて2ちゃんねる掲示板の「ハングル板」における顕著なネタを整理すると以下の通りである。まず、当時最も重要な社会的アジェンダの中の一つであった首脳会談に関するネタが大きな比重を占めていた。次に、「在日朝鮮人」と「特別永住者」という語句が互いに近くに配置されていることから、「在日朝鮮人＝特別永住者」というイメージとして位置づけられてきたことが読み取れる。また、「在日朝鮮人」と「特別永住者」という語句を中心として「差別」「犯罪」「不法」「難民」など多くの語句と関わっていることから、「在日朝鮮人＝犯罪者あるいは不法難民者」というイメージが「2ちゃんねる」掲示板の「ハングル板」で広がってきたということがわかる。

（２）「ハングル板」において他者化されている対象

１）在日朝鮮人・朝鮮人

以上の分析結果から特徴的な点を挙げると、在日朝鮮人のイメージは「特別永住者」というイメージに、「犯罪」「不法」「難民」といった否定的イメージが混在している様相を示していると言える。本研究では、在日朝鮮人と朝鮮人という物語が「ハングル板」でどのような形で構成され、再生産されているかをより明確に把握するため、KH Coderの「関連語検索」機能を用いた。図2[4]は「在日朝鮮人」と「朝鮮人」に対する共起ネットワークを示したものである。

第一に、「在日朝鮮人」という語句を中心として、「日本人」「強制」「犯罪」「反日」「バカ」「チョン」「差別」「歴史」「政治」など多くの語句とのネットワークを有している。次に、「特別永住」という語句は「権利」「制度」「難民」「テロ」という一連の語句がつながっていた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。

[4] Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。

2007年11月20日、日本に入国する外国人に指紋採取と顔写真の撮影に応じることを義務付ける改正出入国管理・難民認定法が施行されたが、在日韓国・朝鮮人ら特別永住者は対象外である。いかなる理由があってこのように、在日韓国人だけを特別優遇するのか。韓国では殺人やレイプや窃盗などが非常に多いため、満17歳以上の全国民は住民登録する際、両手のすべての指の10指紋を登録することが義務付けられている。しかし、在日韓国人は韓国籍であるにもかかわらず、韓国に10指紋の登録をしていない。また、在日は外国人であるにもかかわらず日本は指紋を登録しないことを容認している。国際環境がテロゲリラとの闘いに協調する中、犯罪の温床ともいうべき指紋押捺制度の特例は犯罪テロ国家と名指しされかねない悪法である。即刻、特例廃止を要望する。

（「2ちゃんねるのハングル板」）

上述した書き込みから、「特別永住者」という言説の根底には、この用語と緊密に照応する一連の暗黙の表現が含意されている。すなわち、他の外国人には与えられない「特別優遇」あるいは「特権」という資格のため、むしろ日本人が逆差別を受けているということである。また、在日朝鮮人のイメージの中で「犯罪を犯しやすい」というイメージが根強く混在していることがわかる。

第二に、「民主党」「自民党」など政党に関する語句が目立っていた。まず、「民主党」という語句は「法案」「国益」「要因」など一連の語句とつながっていることがわかる。共起ネットワークの関連語結果から得られた手がかりをもとに、関連書き込みを確認してみた。「民主党」が2ちゃんねるの「ハングル板」に袋叩きになっており、これは、民主党が在日朝鮮人と結託し、在日朝鮮人に国民の税金を流す政策、すなわち、生活保護受給・不正受給、外国人参政権など在日朝鮮人に融和的な政策を進めたためである。また、大半のユーザーは「生活保護制度＝在日朝鮮人を対象に与えられた特権」「生活保護制度＝在日朝鮮人優待政策」とみなしていた。その背景では、生活の困窮した自国民が多いはずなのに、在日という理由だけで国民年金が無条件に免除されることは「無賃乗車」または、「税金泥棒」という認識が根強く存在していたからである。その他、民主党政権の経済政策に対して失望し、懐疑する書き込みが散見されたことも特徴として挙げられる。ある物は、次のような書き込みを寄せた。

円安による物価高で庶民の生活は苦しいってよく聞くが、民主政権時代の超円高の時は生活楽だったのか？株価は間違いなく上がったし、企業の収益力も上がった。民主党政権では就職氷河期だった上、公務員の採用2割削減するとし、学生の就職機会を奪うと批判された。若者から職を奪ったのが民主党政権。そもそも、ミンスは、韓国と支那の経済政策の忠実な実行者で日本の政党じゃないからね。

（「2ちゃんねるのハングル板」）

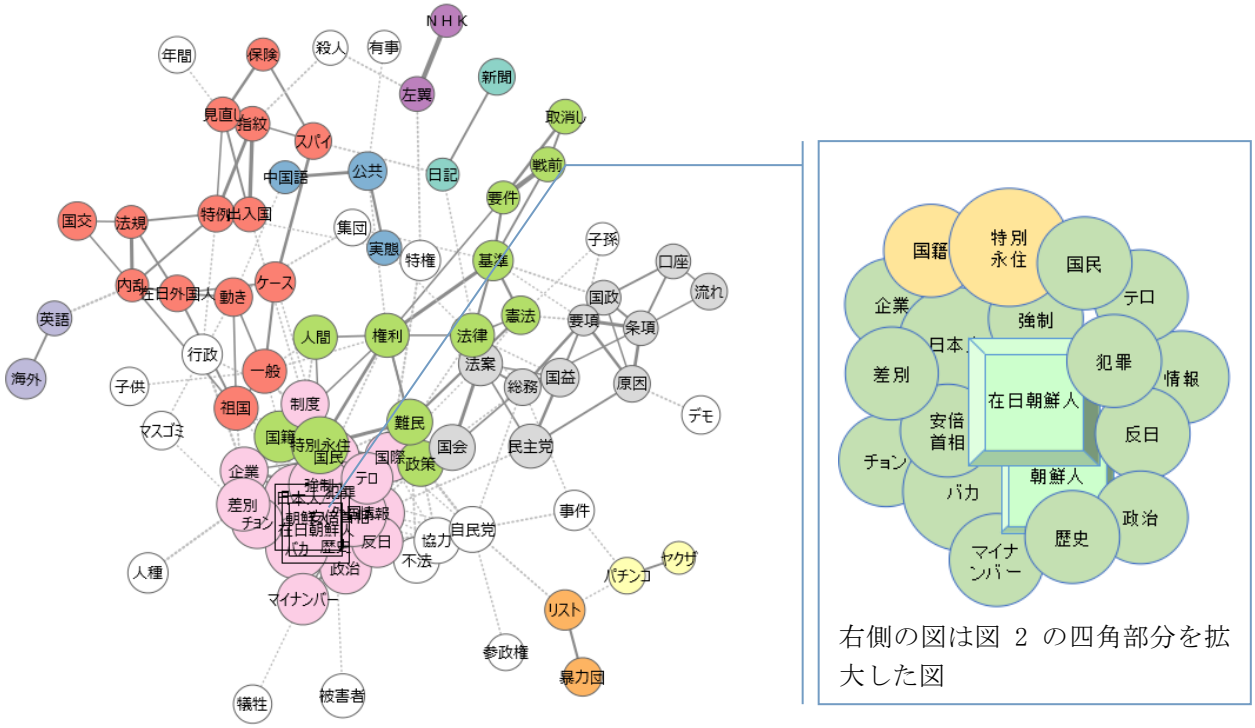
上の書き込みから、安倍政権下における経済政策「アベノミクス」と比較しながら、民主党政権時代の経済政策を評価していた。民主党政権時代の円高政策により、日本経済の低迷や就職難がより一層激化したという論点が読み取れる。次に、「自民党」という語句が目立っていた。「自民党」という語句を中心とし、「政策」「リスト」「事件」「参政権」などの語句が破線で結ばれていることがわかる。語句間の関係をもっと明確に把握するため、出現パターンの似通った語句、すなわち共起の程度が強い語句を線で結んだネットワークを参照してみた。「自民党」という語句を中心とし、「参政権」「事件」「政策」「反日」「リスト」という一連の語句がつながっていることが分かる。共起ネットワークの分析結果から表れた特徴後を下に、関連書き込みを確認してみた。自民党を擁護し続けた「2ちゃんねる」掲示板では自民党や安倍首相を支持する書き込みもあるが、批判の声も散見された。これは、慰安婦妥結をはじめ、韓国に対する安倍政権と自民党の対応が「予想外に」融和的であったため、自民党批判に対するレスも集まり始めたと解釈できる。

第三に、「左派」という語句は「NHK」「特権」という語句間に共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語を参照しながら、関連書き込みを確認してみた。

現状のNHKの有り様は日本の政治経済軍事すべてにおいて、日本という国の立場が全く見えてこない。特に政治における論説、解説は異様というレベルである。すでに特権的企業に成り下がり、公共放送という偽看板を掲げた営利企業になっている実態では、NHKに受信料支払強制の大義名分は

ない。受信料の支払いは任意とするか、廃止が妥当だろう。これは100%民意である。
（「2ちゃんねるのハングル板」）

上の書き込みから、NHKの公共放送としてのあり方に不信感を持ち、同時に、NHKと権力との癒着関係について懸念と批判の声が高いことが読み取れる。NHKだけではなく、大手メディアに関する不満の声が2ちゃんねるの「ハングル板」に散見された。その一例で、2014年3月、東京都や全国の図書館で「アンネの日記」が破損されており、この事件の犯人を巡り、「ハングル板」では「アンネの日記」事件の犯罪者は在日朝鮮人であるにもかかわらず、マスコミは真実を報道していないという書き込みが寄せられていた。このように、「ハングル板」における既存の大手メディアは真実を隠しているだけではなく、「左派的」「反日的」という主体として位置づけられていた。



右側の図は図 2 の四角部分を拡大した図

図2　「在日朝鮮人・朝鮮人」に対するハングル板の共起ネットワーク

（3）「イルベ」掲示板の「政治日刊ベスト板」における主なネタ

「政治日刊ベスト板」における全体的な傾向を把握するため、共起ネットワーク分析を行った。まず、「政治日刊ベスト板」における共起ネットワーク分析の結果は図 3[5]の通りである。「イルベ」掲示板においては「国家」と「民主主義」に関する議論が顕著であった。KH Coder では中心的な特徴語をピンク色で示すことが可能であり、ここでは「国家」が最も濃いピンク色となった。その次に「民主主義」「大韓民国」「経済」という語句がピンク色を帯びた。このことから、「政治日刊ベスト板」においては国家や民主主義、経済に関するネタに関心が集まっていたという傾向が読み取れる。

[5] 図 3 の Jaccard 係数は 0.0697 であった。

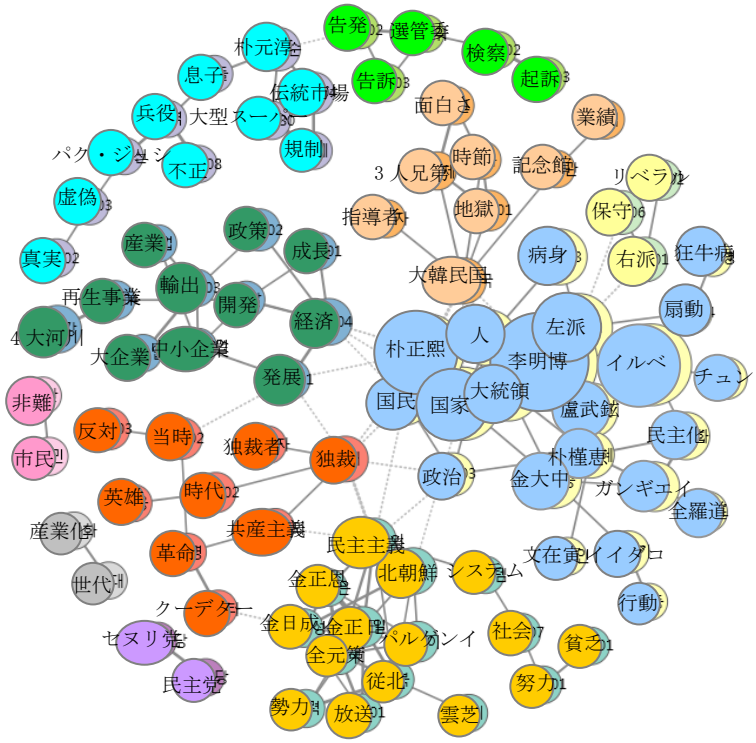


図3 政治日刊ベスト板における共起ネットワーク

以上のように共起ネットワーク分析からもある程度主なネタをうかがい知ることができるのだが、より詳細な分析のために、共起の程度が強い単語同士を同じグループに再分類した。共起ネットワークの分析結果の下に、グループ 1 から 5 にまとめることができる。

まず、グループ 1 では「理念間の葛藤」に関するネタを形成している。ネット世論を二分する「保守」と「リベラル」、「左派」と「右派」の対立が深刻化することがわかる。その論拠として、韓国国内の左派勢力および民主党を卑下することに焦点が置かれている点が挙げられる。

第一に、「左派」「狂牛病」「扇動」の語句が非常に強く関連し合うことが目立っていた。李明博政権が 2008 年 4 月になってはじめて米国産牛肉輸入をし、当時 MBC テレビの「PD 手帳」という番組では米国産牛肉の危険性を集中的に取り上げた。これが起爆剤となり、2008 年 5 月から 3 ヶ月間、100 万人が「米国産牛肉輸入反対蝋燭デモ」を行い、李明博政権に対する批判と退陣要求への争点に浮上した。政治日刊ベスト板における共起ネットワーク分析の結果から、米国産牛肉を食べれば、狂牛病(BSE) にかかるという現象は、当時李明博政権を追い詰めるための左派勢力の扇動によるものという見解が読み取れる。次に、「左派」と「病身」という共起関係を有していたことが分かる。「イルベ」掲示板において「病身」は本来と異なる意味で使用されていた。本来の意味は身体障害者を指す用語であるが、ここでは二つの意味として使用されている。一つは、駄目な人や駄目な物事全般を指す言葉として使われる。もう一つは、日常では単なるバカ、愚か者を指す用語としてしばしば使用されており、ユーザー同士がお互いに呼び合う際にも習慣的に使用されている。そこで、「病身」という語句は「左派」と共起関係が見られる同時、「人」という語句とも共起関係を有していたことがわかる。

第二に、「3 人兄第」は「地獄」「面白さ」「時節」という語句間に強い共起関係が見られた。共起ネットワークの分析から表れた特徴語について関連書き込みを参照しながら見ていく。ここで「3 人兄第」とは、左派大統領であった「金大中」「盧武鉉」元大統領と北朝鮮の「金正日」国防委員長を言う。李明博政権の際、3 人の政治家の死去と関連し、「3 人兄第を地獄に送って太平の世の中を築くことができた」という書き込みが多数あった。抽出語上位 100 語においても「金大中」(321 件)、「盧武鉉」(297 件)、「金正日」(86 件) の出現頻度が高かったことが分かった。特に、北朝鮮の「金正日」国防委員長より、「金大中」や「盧武鉉」元大統領に対いして言及するネタが相対的に顕著であることが読み取れる。

第三に、「金大中」「ガンギエイ」「全羅道」「民主化」などの語句が目立っていた。ガンギエイ（洪魚：ホンオ）は全羅南道の名物料理であり、全羅道出身の金大中元大統領の大好物でもあった。「イルベ」ユ

ーザーが好んで使っている「ガンギエイ」は隠語の一種として通用されている。すなわち、ガンギエイは特有の臭いのきつさと製法から、全羅道の人々を蔑む際によく使用されている。また、「イルベ」掲示板において「民主化」という語句は本来と異なる意味で使用されていた点に注目する必要がある。ここで、「民主化」とは、「反対」「ＮＯ」「押さえ込む」という意味で使われている。民主化という言葉をあらゆる否定的意味に転用して使うというルールが「イルベ」ユーザーの間で定着してきたためだ。これは、民主化を業績とみなす左派と民主化勢力に対する反感と解釈できる。「イルベ」掲示板上においては「金大中」＝「民主化」というレッテルを貼って金大中元大統領を他者化することがうかがい知ることができる。もう一つのレッテルは、「金大中」＝「イイダコ」である。「イイダコ」は足を引きずって歩く金大中元大統領の姿を嘲弄する際、よく使用されていた。

第四に、「朴元淳」という語句がネットワークの中心になっている、「伝統市場」「大型スーパー」「規制」「息子」「告発」など多くの語句とつながっていた。朴元淳は現在、韓国ソウル市長として「共に民主党」に所属している。伝統市場活性化のために大型スーパーを規制すべきだというトピックがある一方、朴元淳ソウル市長の息子、パク・ジュシン氏の兵役忌避疑惑に対するトピックもあった。

第五に、「記念館」と「業績」という語句が見られ、これは「朴正熙」元大統領の軌跡と功績を称えるために建立された記念館に関するトピックが言及されたことがわかる。また、「4 大河川」と「再生事業」という語句も見られ、抽出語上位 100 語において「4 大河川」という語句は 196 件として集計された。それらを考慮すると、李明博元大統領が始めた 4 大河川(漢江・洛東江・錦江・栄山江)再生事業に関するトピックに関心が高まっていたことがうかがえる。

グループ 2 は「地域感情」に関するネタを形成している。「全羅道」と「ガンギエイ」の語句が非常に強く配置されていることが分かる。また、「ガンギエイ」と「民主化」語句間には強く関連し合うことが目立っていた。上述した通り、「民主化」という語句は本来の意味とは異なり、否定的な意味が含蓄されていることを考慮すると、「全羅道」＝「ガンギエイ」＝「民主化」という構図が形成されていることがわかる。

グループ 3 は「反北朝鮮」に関するネタを形成している。「全元策」という語句がネットワークの中心になっていて、「金日成」「金正日」「金正恩」「放送」「自由」「パルゲンイ」「従北」「勢力」「雲芝」など多くの語句とつながっていた。これは、2012 年 5 月 26 日 KBS の「深夜討論」という番組で全元策弁護士が出演し、「金正日は畜生である」と発言したのがマスコミだけでなく「イルベ」ユーザーの間でも話題になっていたことがうかがい知れる。まず、用語の一部整理した上で検討していく。「パルゲンイ」という語句が見られ、韓国では親北朝鮮系や左翼的な考え方を持つ人々に対して「パルゲンイ(アカ)」と呼んでいる。また、「従北」とは、「親北」との語句と同様な意味であり、北朝鮮の思想や政治理念などに従うことを言う。次に、「雲芝」とは、盧武鉉元大統領の逝去を皮肉る言葉であり、2009 年、自宅裏山の「フクロウ岩」からの飛び降り自殺を雲芝泉(ウンジチョン)という名前の栄養ドリンク CM でパロディされたことから始まっていた。「イルベ」掲示板における「雲芝」という語句は「死ぬ」という意味で主に使用されている。「イルベ」掲示板においては北朝鮮に親しい、擁護する人や団体を「従北」または「パルゲンイ」というレッテルを貼っており、彼らを「雲芝」ということになぞらえて表現したことがわかる。

グループ 4 は「独裁政権時代へのノスタルジア(郷愁)」に関するネタを形成している。「朴正熙」という語句は「経済」や「独裁」という語句と破線で結ぶことが分かる。実際、朴正熙元大統領に対する評価においても、「漢江の奇跡」と呼ばれる超高速経済成長と同時に軍事独裁政権による人権弾圧や自由抑圧という二つの評価で克明に分かれる。共起ネットワークの分析結果においてもこうした傾向が現れているため、グループ 4 においてはこの二つの語句が特徴語であると言える。

第一に、「経済成長の神話」に関する共起ネットワークである。「経済」という語句を中心として、「中小企業」「大企業」「輸出」「産業」「発展」「開発」「成長」などの語句のつながりがあることがわかる。共起ネットワークの分析から表れた特徴語について関連書き込みを参照しながら確認してみた。当時、朴正熙元大統領は周囲の強烈な反対にもかかわらず、「経済発展 5 カ年計画」や「京釜高速道路」など経済成長を推し進めたという書き込みが多数を占めた。また、朴泰俊会長の建設に関するトピックも目立っていた。当時、朴正熙政権の最重点政策は重化学工業であり、中でも浦項製鉄建設（現在、ポスコ）は朴正熙元大統領が国運を掛けて推進してきた重化学工業のシンボルであると言える。朴泰俊氏は浦項製鉄建設の創立者であり、朴正熙元大統領の経済神話の功績及び業績と関連して取り上げたと考えられる。

第二に、「独裁」に関する共起ネットワークである。「独裁」は「独裁者」「時代」「英雄」「革命」「クーデター」「民主主義」「共産主義」といった語句と結ばれていることがわかる。関連書き込みを確認してみた結果、朴正熙元大統領を貧困と混乱の中の英雄として表象していた。グループ 4 においては、朴正熙元大統領の神格化を強調する傾向が読み取れる。共起ネットワーク分析の結果をもとに考えてみると、朴正熙元大統領へのノスタルジアの背景には経済成長に関する神話が大きな影響を及ぼしていることが示唆された。

グループ 5 は、「産業化」と「世代」が独立したクラスタを形成している。「イルベ」掲示板において「産業化」という用語も上述した「民主化」という語句と同様に、本来と異なる意味で使用されていた。ここで、産業化は朴正熙元大統領が成し遂げた経済業績として、彼らが志向すべき価値ということから、産業化という言葉は「成功」「賛成」など肯定的なニュアンスで使われる。また、リベラル傾向の意見などをネットで論破して保守傾向に転向させたという意味でも通用されていた。書き込みを確認したところ、ここでは後者の意味で使用されていることが分かる。

（4）「政治日刊ベスト板」において他者化されている対象

1）金大中大統領

「イルベ」掲示板上において表れたネタを通じて他者化されている対象が左派勢力や全羅道、北朝鮮だということが確認できた。特に、「イルベ」掲示板上において「朴正熙・李明博元大統領」と「金大中・盧武鉉元大統領」という二項対立が最も顕著に表れていることが分かる。以下では、金大中・盧武鉉元大統領のイメージはどのような形で構成され、再生産されていたかを究明するため連語検索を行った。「金大中」元大統領と関連語との共起ネットワークでは、図4[6]のような結果となった。

第一に、「左派大統領」というネタである。「金大中」元大統領と関連語との共起ネットワークから、「左派」「大統領」「盧武鉉」などが目立っていた。周知のとおり、1998 年、金大中政権が登場して韓国に左派リベラル政権が初めて誕生した。金大中政権を引き継いだ盧武鉉政権もリベラル的な政権と言われている。そこで、「左派」といった語句が特徴語なものとして位置されたことがわかる。

第二に、金大中元大統領を嘲弄・揶揄する際、使われているネタである。「イイダコ」「杖」「足」「自由自在」「スイッチ・ヒッター」といった語句が目立っていた。この五つの特徴語は金大中元大統領が普段足を引きずって歩く姿を嘲弄するものである。スイッチ・ヒッターとは、野球やソフトボール等において、左右両方の打席で打てる選手のことである。「イルベ」掲示板における「スイッチ・ヒッター」とは、杖を左側についたり、右側についたりする金大中元大統領を皮肉る意味である。「銅像」「コンベンション・センター」「業績」といった語句が目だっていた。「スイッチ・ヒッター」「足」という修飾語が付け加えられることから、金大中元大統領の業績を称えるために建てられたコンベンション・センターについて皮肉のニュアンスが込められていたことがうかがえる。

第三に、「経済政策」に関するネタである。「IMF」という語句を中心として、「病身」「仕業」「金泳三」「経済危機」「リーマン・ショック」という語句に共起関係が見られた。1997 年 7 月よりタイで始まったアジア金融危機の拡大は、韓国にまで危機が飛び火し、同年 12 月では IMF の緊急資金救済を受けるに至った。IMF と共に出帆した金大中政権は金泳三政権に代わって IMF 事態の収拾に精力を傾けた。共起ネットワークの分析結果から、アジア通貨危機をもたらした既成政治家に対する強い失望を抱いていたことや、1997 年の IMF 事態から「失われた十年」、そして 2008 年のリーマン・ショックによって「失われた二十年」を経験しており、経済破綻の背景をめぐる議論が取り上げられていたことがわかる。次に、「庶民」「経済」「政治」「自殺」「扇動」という語句も目立っていた。共起ネットワークの結果から、既成政治家への不満と怒りの根底には国民の体感景気が影響を及ぼしていると解釈できる。この時期はアジア通貨危機の直撃を受け、企業の倒産やリストラが相次ぎ、失業者が増加しており、さらにセーフティーネットもほとんど整備されていなかった。当時金大中政権は IMF が要求した高金利・緊縮政策、公企業の民営化と規制緩和、労動市場柔軟化、資本・貿易の自由化などに伴い、新自由主義的な構造調整政策を行った。それに続いて盧武鉉政権においては新自由主義的な経済政策をより一層強化された。「イルベ」掲示板では新自由主義路線を標榜した金大中・盧武鉉政権時代は「失われた 10 年」だと言われている。あるユーザーは「金泳三の時代に IMF が起きて、金大中・盧武鉉の時代には経済成長率底入れ」と書きこんでおり。他にも。左派政権 10 年が韓国経済を滅ぼしたという書き込みが多数見受けられた。

[6] 図 4 の Jaccard 係数は 0.1 以上であった。

第四に、「対北政策」に関するネタである。「北朝鮮」「米」「税金」「核兵器」「平和賞」「受賞」「先生」「検証」「侮辱」という語句間には強い共起関係が見られた。特に、「金大中」元大統領と関連語との共起ネットワークにおいて「北朝鮮」が最も濃いピンク色となったことから、この語句がここでの特徴語だと言えるだろう。韓国社会の中で保守とリベラルの差異を最もよく表す指標が対北政策であり、「イルベ」掲示板上においてもこうした争点を強調する傾向が読み取れる。特に、金大中政権が発足し、対北朝鮮融和政策（いわゆる「太陽政策」「包容政策」）と呼ばれる対北政策が実施され、その政策は盧武鉉政権に継承された。「イルベ」掲示板上においては過去金大中、盧武鉉両政権が続けてきた対北朝鮮融和政策を全面否定している様相を呈していることが分かる。次に、共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら検討してみた。

・失われた10年間で経済力をはじめ何も解決できていないのに、北朝鮮を崇め奉っている。
・金泳三のせいで国家がめちゃくちゃにされて、IMF に介入される羽目になって、さらに金大中が米の支援をした結果北朝鮮は核を作った。
・国民の税金を不法に北朝鮮に不法に供給し、その対価としてノーベル平和賞をもらって、恥かしくないのか？

（「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」）

こうした書き込みから、国内経済の悪化や北朝鮮政策に対する非難の感情が読み取れるだろう。近年韓国内では北朝鮮による核実験と弾道ミサイル開発をはじめ、2010 年 3 月に発生した天安艦爆沈事件と同年 11 月の延坪島砲撃事件などで、対北政策をめぐって保守とリベラル間の理念対立が一層先鋭化している。このような、文脈から考えれば、北朝鮮に関する議論は韓国社会内の理念的な選択を強要する定番ネタと見受けられており、これは分断国家という韓国的な特殊性に起因するところが大きいためと考えられる。

第五に、「5.18光州民主化運動」に関するネタである。「5.18」という語句を中心として「従北」「政権」「武装」「反乱」「勢力」「民主主義」という語句に強い共起関係が確認された。共起ネットワークの分析結果から「イルベ」ユーザーは「5.18光州民主化運動」を「民主化運動」ではなく「武装勢力による反乱・暴動」とみなしていることが分かる。そして「イルベ」ユーザーの視線での「5.18光州民主化運動」は「暴動」あるいは、5.18光州民主化運動の犠牲者に対して「ガンギエイ」というフレーム(frame)が形成されていることがうかがえる。こうしたフレームがユーザーの頭の中に形成される基底には、「地域主義」または「地域感情」といったもう一つのフレームが潜んでいると解釈しうる。このことから、韓国政治を語るにあたって地域主義現象と保守対リベラルという先鋭な対立構図は極めて大変重要な要因であるといえるだろう。韓国では伝統的にリベラル派が強い全羅道と保守派の牙城、慶尚道の対立が続いている。「イルベ」掲示板では左派支持率が高く、民主化を求める全羅道や光州市民を嫌悪する傾向が顕著である。それゆえ、全羅道出身の金大中元大統領は攻撃の対象となり、「5.18光州民主化運動」の犠牲者を侮辱する言説が絶えず出回っていると言える。もう一つ注目したい点は、「イルベ」掲示板ではイルベ会員であることを判別する思想検証を行うという点である、その大半の質問は金大中・盧武鉉など歴代民主化政権を否定し、光州民主化運動を貶める内容ということだ。左派の色を帯びたと疑われるユーザーに対しては魔女狩りのような行為が横行している。

第六に、「朴正熙元大統領と京釜高速道路」に関するネタである。「朴正熙」「京釜高速道路」「反対」「地域感情」「全羅道」などの語句に共起関係がみられた。書き込みを確認した結果、当時、朴正熙元大統領の京釜高速道路の建設について金大中が反対していたことが関連しており、具体的に金大中が反対の理由としては高速道路の建設より農業政策に力を入れるのがより効率的であり、地域不均衡発展をもたらすというものであった。このことに関連して朴正熙元大統領の高速道路の政策に反対した金大中元大統領を嘲弄する内容が多数見受けられた。

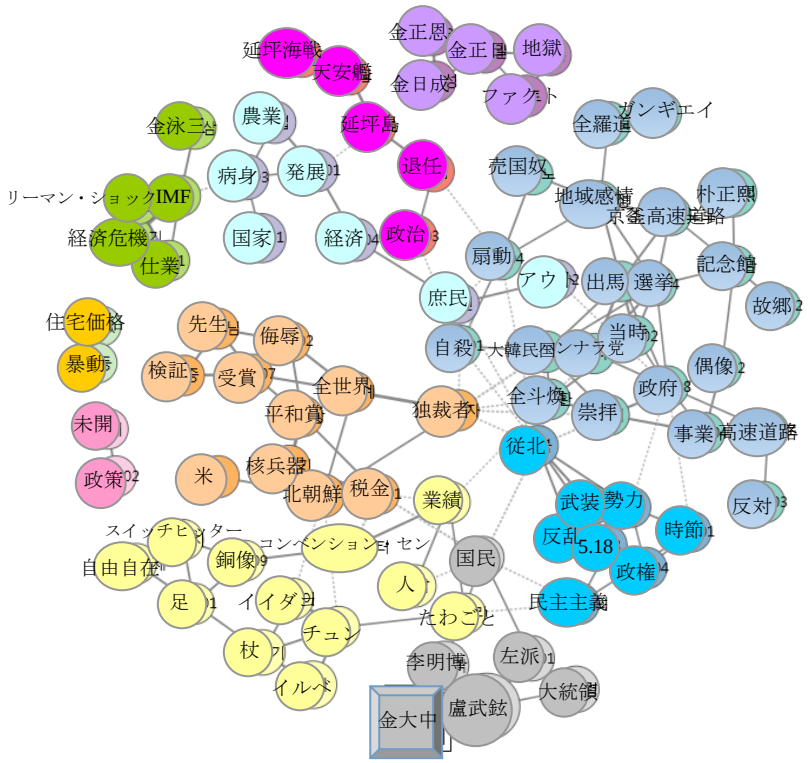


図 4「金大中」元大統領に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク

２）盧武鉉大統領

第一に、「全羅道＝民主党＝未開」に関するネタがあげられるだろう。「盧武鉉」元大統領と関連語との共起ネットワークでは、図 5[7]のような結果となった。「盧武鉉」という語句は「李明博」「金大中」「朴正熙」「朴槿恵」「大統領」「左派」「全羅道」「民主化」「未開」「民主党」などの多くの語句とのネットワークを有している。語句間の関係をより明確に把握するため、ここでは出現パターンの似通った語句、すなわち共起の程度が強い語句を線で結んだネットワークで表した。「未開」という語句を中心として、「全羅道」「民主党」「政策」などがつながっていることから、「全羅道＝共に民主党（旧・民主党）」という極めて明確な「地域政党」の構図が形成されただけではなく、これらの集団が嫌悪の対象となっていたことが分かる。また、「全羅道」という語句は「光州」「暴動」「延坪海戦」という語句とつながれていた。共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。「盧武鉉や金大中は延坪海戦[8]の追慕式は出席しないで、暴動記念日には参加した」という書き込みが多数あった。ユーザー間では「5. 18 光州民主化運動」を暴動記念日として扱われていることをうかがい知ることができ、これは、イルベの大半のユーザーが 1980 年に軍事独裁政権に反対した「5. 18 光州民主化運動」を否定的に評価しているためである。他のユーザーは「6. 25 に参戦した勇士らの恩恵は雀の涙程度なのに 5. 18 暴動に参加した奴らの恩恵はいっぱいある。まったく湖南（全羅南北道の呼称）出身の奴らは即刻入れ替えるべきだ」と述べている。「イルベ」掲示板の書き込みを考察すると、韓国に起きた一連の事件などを二項対立的に組み込む構図が一般化されていたことがわかる。「5. 18 光州民主化運動」をはじめ、2014 年の「セウォル号事件」などを貶めようとする動きが露骨に現れた。その反面、1950 年の「6. 25 戦争（朝鮮戦争）」や 2010 年の「天安艦爆沈事件」と「延坪島砲撃事件」など北朝鮮に対抗する戦いのネタは頻繁に取り上げられ、その重要さを伺うことができる。

第二に、「経済政策」に関するネタである。「経済」という語句は「不動産」「地価」「物価」「上昇率」「公企業負債」「弾劾」「話」という語句と共起関係がみられため特徴語を通じて、関連書き込みを確認してみた。盧武鉉政権の不動産政策は全国のいたるところで不動産ブームを起こし、土地や住宅価格を高騰させ、中間層や庶民をさらに苦しませているという内容であった。次の書き込みは盧武鉉政権にお

[7]Jaccard係数0. 1以上のリンクを共起関係として分析した。
[8]延坪海戦は 2002 年 6 月 29 日に黄海延坪島付近で発生した北朝鮮と韓国の艦艇による銃撃戦のことである。

ける経済政策の最大の失敗が、新自由主義政策の採用であったという論点が観察される。

盧武鉉は新自由主義政策を実施した。代表的な例が医療保険の民営化、水道の民営化、ガスの民営化、鉄道民営化、韓米 FTA、米収入、牛肉の輸入、住宅価格上昇、大学の授業料 2 倍値上げ、物価の 2 倍値上げなどだ。退任後には、庶民のコスプレをしたが、任期中には中産層を庶民にして庶民は貧民にしたのが盧武鉉だ。国をダメにするし、経済破綻するし、政治は混乱し、任期末の支持率は 5.7%台まで落ちた。退任後、賄賂を受け取ったことや、不正疑惑がかかって、貰ったピアジェの時計を田んぼに捨て、ミミズク岩から飛び降りた盧武鉉や盧武鉉の分身の文在寅。
（「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」）

上述した書き込みから、盧武鉉政権になってから韓国の経済はますます冷え込んでいき、中流層や庶民の暮らしが一層疲弊したという論点をうかがことができる。また、盧武鉉の支持率が低下した背景には、格差拡大と経済の不満があるという論点も読み取れる。

第三に、「退任後の贈収賄事件と自殺」に関するネタである。「任期末」という語句を中心として、「退任」「賄賂」「支持率」「不正」など多くの語句と共起ネットワークを有している。また、「任期末」という語句は「ピアジェ」（スイスの高級時計）「田んぼ」「名品」「自転車」「市民」「非難」といった語句と近くに布置されている。自転車というものは庶民のイメージを指す指標的（indexical）記号であり、同時に、盧武鉉元大統領のイメージを表象する記号であると解釈できる。2002 年大統領選で盧武鉉元大統領は「正直」「クリーン」「庶民的」といったイメージで当時旋風を巻き起こした。退任後にも孫を自転車に乗せて田舎の村でサイクリングを楽しんでいる姿がよく映された。しかし、退任後に朴淵次泰光実業会長から不正資金を受け取ったことが明らかになり、盧元大統領の政治的資産であった道徳性も崩れ去った。これを受け、盧元大統領を非難する書き込みが相次いでいたと解釈できる。また、「ゴミ」と「評価」という語句が独立したクラスタを形成し、これは盧元大統領の評価が最悪という表現を「ゴミ」に当て付けて使用していた。

次に、「支持率」という語句は「感性売り」（同情票）「自殺」といった語句とつながりを有している。2009 年、盧武鉉元大統領の死去は、韓国社会に大きな衝撃を与えた。当時盧元大統領の死去について李明博政権と検察の厳しい捜査が原因であったという世論が一般的であった。「イルベ」掲示板では盧元大統領の死去は同情票を狙っていると受け取られ、「不正」という語句は「地獄」「三人兄第」といった語句とつながりを有しているから、金大中・盧武鉉・金正日に三人兄第としてレッテルを貼り激しい嫌悪感を抱いているということがわかる。

第四に、「弁護人」に関するネタである。北朝鮮の政治行為者をはじめ、従北、国家、民主主義などの語句が目立っている。盧武鉉政権においても金大中政権の対北朝鮮政策を継承し、これと関連した議論がとりあげられていたことが分かる。次に、「事件」と「弁護人」という語句間には独立したクラスタを形成している。「弁護人」は盧武鉉元大統領の青年弁護士時代の逸話をモチーフにした映画であり、これと関連したトピックが持ち上がっていたことがうかがえる。

他に注目すべき点として「保守」「NO 答」（どうしようもない）という語句が表れていたことで、保守勢力が集うネット掲示板「イルベ」でこうした共起関係が現出されたのは興味深い。語句間の関係をもっと明確に把握するため、共起の程度が強い語句を線で結んだネットワークを対照してみた。「保守」「NO 答」（どうしようもない）「北朝鮮」「その時」「心」「仕業」など多くの語句とのネットワークを形成していることがわかる。関連特徴語を参照しながら、書き込みを確認してみた。朴槿恵大統領と「朴サモ（朴槿恵を愛する会）」に対する批判の声が読み取れる。これまで朴大統領を擁護してきた様相とは対照的であると言える。以下では関連書き込みの一部の抜粋したものである。

・あまりにもガンギエイたちに振り回されすぎていて、カリスマと決断力も足りないんだよな。さらに親中政策もよくなかった。共に民主党の左派奴と同じ親中政策なんて呆れちまうよ。
・左派の顔色を執拗にうかがってやがる。
・父親の顔に泥を塗った。
・人事の問題で最近はがっかりさせられてばかりだ。
・決断力も見えなく、とんでもない福祉政策ばかり、もう「NO 答」（どうしようもない）。李明博みたいに押し通すんだ。正直に李明博時代が懐かしいな。

・（中略）女性部の支援、多文化政策、中小企業育成、まずこの三つの政策を叩かなきゃいかんよ。イ・ジャスミンみたいなフィリピン比例代表の公認を与えるのは今も納得できないんだ。

（「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」）

上記の書き込みからみると、左派の声に振り回されていることや人事の問題で袋叩きに合っていることがわかる。人事の問題は 2014 年 6 月 10 日、朴大統領が文昌克氏を次期首相に指名したが、過去に日本による植民地支配や南北分断は「神の意思」と発言したことが問題視され、2014 年 6 月 24 日首相候補を辞退した。書き込みを通じて、首相候補の文昌克氏が就任を辞退したことについて、興奮している様子も見て取れる。次に、最近展開している政策に対して朴大統領を痛烈に批判していることも読み取れる。

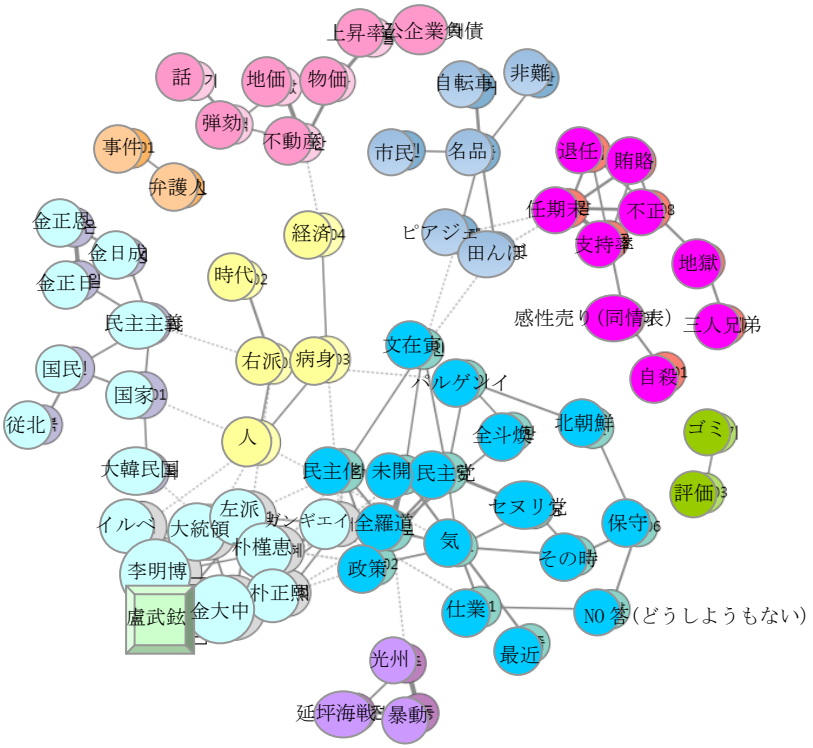


図 5「盧武鉉」元大統領に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク

（5）「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」（code）

これまでの分析をもとに、以下では、日韓両国においてヘイトスピーチ現象を生み出す要因と共に、「2 ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」（code）、つまり「心理的なメカニズム」は何かについて考えてみたい。

第一に、リサーチ・クエスチョン 1 の研究結果から、日韓の両掲示板のユーザーと「ヘイトスピーチの対象」との二項対立の間にある「境界」には「無賃乗車」というコードが潜むことが読み取れる。ユーザーの間に在日朝鮮人は「特別永住権」と「生活保護制度」を利用し、日本の福祉政策に「無賃乗車」をしているという認識が根深く存在しているということが書き込みから確認できた。この点から「2 ちゃんねる」掲示板での在日朝鮮人への嫌悪は「無賃乗車」に対する憎悪を在日朝鮮人・朝鮮人に一方的に投写したと解釈できる。「イルベ」掲示板で「5.18 光州民主化運動」と「セウォル号事件」の遺族や「北朝鮮」に対して「税金泥棒」というレッテルを貼るのも一種の無賃乗車への嫌悪と言える。これは、自分たちがマジョリティでありつつも、「想像された（imagined）強者であるマイノリティ」-「われわれ」の権利を侵害し「権利を得ている（と想像する）マイノリティ」や「マジョリティと同等の権利を持つ（と想像する）マイノリティ」-によって被害を受けているという「被害者意識」が根底にあるためであろう。（山崎 2015:12-13）

第二に、日韓両国間でのネット上のヘイトスピーチ現象は、それぞれの社会が持っている特殊性や個別性の軸によって特徴づけられると解釈できる。一つは、「2 ちゃんねる」掲示板におけるヘイトスピー

チ現象は、歴史修正主義の台頭や東アジアの情勢が複雑に絡み合っている。「ハングル板」における主なネタは、首脳会談後の昼食会をめぐる韓国側の態度、日本の世界文化遺産問題をめぐる日韓の歴史認識の対立、南シナ海や竹島・獨島の領有権をめぐる紛争などで明らかになった。このような近隣諸国との歴史的関係をめぐる問題はナショナリズムを煽るようなネタとなっており、それに在日特権というレッテルを貼り、インターネット上で朝鮮人・在日朝鮮人を他者化している形で表出されていた。その意味で「2 ちゃんねる」掲示板のヘイトスピーチの現象は、日本国内の労働市場問題ではなく、近隣国との歴史的な観点から把握した樋口(2014)が指摘した通り、「日本型排外主義」に立脚し、生み出したものであると言える。換言すると、日本国内のヘイトスピーチの現象は、自分たちの仕事を外国人に奪われている、といった趣旨で特定の民族や国籍に対して公然と誹謗中傷する欧州のそれとは異なる特殊なものであると見受けられる。

もう一つは、日本におけるヘイトスピーチ現象は既存の大手メディアへの反作用として誕生した。「ハングル板」におけるヘイトスピーチの標的は在日朝鮮人だけではなくて、日本国内の左派勢力や既存メディアも定番となる標的であることが明らかになった。中でも本研究で特に注目すべき点は、反マスメディアの空気が「ハングル板」を中心に広範に形成されてきたということである。本研究の結果から、長年韓国について日韓友好ムードを壊してはいけないという雰囲気が大手メディアにあり、在日朝鮮人の犯罪報道に手心を加えたり、在日の犯罪者報道で通名のみを報じたりすることに対する不信感が根底にあるということが示唆された。その上、「メディア」という語句は「左派」「特権」という語句との共起ネットワークを形成していたことから、「2 ちゃんねる」掲示板のユーザーは「メディア」を「左派」「特権」と結びつけて認識していることも読み取れた。

次に「イルベ」掲示板で蔓延しているヘイトスピーチ現象は、単なる感情の発露というよりも、長年にわたって続いてきた分断体制と地域主義という共通の土台の上に、2000 年代以降一層強化したグローバルと新自由主義という時代的・社会的文脈が混在して生まれたものと言える。まず、分断体制と地域主義という土台から形成された「リベラル」と「保守」という二項対立的な構図は、韓国社会でのみ通用されることができる特殊性が反映されている。例えば、慶尚道＝セヌリ党(保守)、全羅道＝共に民主党(リベラル)という極めて明確な「地域政党構造」、親北＝リベラル、対北強硬＝保守という「対北政策観」、分配・福祉優先＝リベラル、自由・成長優先＝保守という「経済政策観」がある。こうした明確な理念間の対立軸が形成された上で、1997 年のアジア通貨危機と 2008 年のアメリカ発の金融危機以降の韓国社会の構造的変化が起爆剤となって、今の「イルベ」掲示板が誕生したと考えられる。その意味で、「イルベ」掲示板で表出されているヘイトスピーチ現象は、従来のヘイトスピーチ現象では捉えられない新しい現象であると言える。

第三に、日韓両国においてヘイトスピーチ現象を上で取り上げられた無賃乗車や被害者意識、歴史問題や理念対立のみで把握することは限界がある。日韓両掲示板におけるヘイトスピーチ現象は、表面的に「在日朝鮮人・朝鮮人」「戦後民主主義」「メディア」「左派」「エリート主義」「北朝鮮」などを他者化するように見えるが、その本質は国家権力及び制度に対する広範な怒りが潜んでいたり、逆に過剰で偏った愛国心に向けられていたりしていると解釈できる。

「イルベ」掲示板の本質の把握において、韓国社会を両分する二つの軸は「政治民主化」と「経済民主化[9]」である。1987 年 6 月抗争で市民は「独裁打倒」「自由と人権」「民主主義」などと書かれた横断幕を手に持ち、街頭デモを行った。民主化を要求する市民の熱望で大統領直選制実現を主とした制度的な民主化がなされたが、彼らが切願した「真の民主化」は「虚妄」したことであった。「政治的民主化」は制限された形式的民主主義とはいえ、ある程度実現したが、「経済的民主化」は失敗したことに対する「虚妄」であろう。その「虚妄」は民主主義と政治改革の象徴である金大中と盧武鉉大統領をはじめ、民主化運動で中心的な役割を果たした 386 世代に対する怒りの表出として現れた。その一方で、民主主義とは何であり、はたして民主主義は我々に何をもたらしてくれるのであろうかということに対する問いが提起され始めた。その反動として、「民主化」という言葉が「イルベ」掲示板において「非推薦」という意味で使われるのは示唆することが大きい。本研究の分析結果でも「民主化」は聖なるものとして捉えるのではなく、ただの冷やかしの対象にすぎないということがわかる。

次に、「イルベ」掲示板の思考体系で際立った特徴の一つが反民主主義的な価値観に立っているとい

[9] 「経済民主化」とは、憲法 119 条 2 項に登場する概念で、①社会の格差を縮小する、②公正に競争できる環境を作る、③財初・大企業から自営業者までさまざまな企業が提供できる環境を目指す、というものである。

うことである。こうした反民主主的的な価値観は理想的な国家実現や国家再建を阻む対象をこらしめ、社会秩序を正すということにつながっている。しかし、「我々と彼ら」と「友と敵」を分かつ境界線はグローバル化と新自由主義が到来することにより曖昧となった。現代の民主主義の本質は、たとえば女性や若者、移住労働者、障害者、貧困層などマイノリティを包摂しており、これは結局、国民が税金を納めるがゆえに可能なものである。しかし、新自由主義体制が展開される過程で、既存の福祉国家体制の中に包摂されていなかった集団が受けられた様々な恩恵は一種の「特権」であるという認識が広かった。「民主化」と対比される「産業化」の対象にリベラル勢力や全羅道、女性、北朝鮮、5.18 光州民主化運動・セウォル号の遺族、朝鮮族(韓国系中国人)をはじめとする外国人、移住労働者、ゲイ、障害者等などが含まれており、「イルベ」掲示板のユーザーの観点からみると、彼ら彼女らは社会的弱者ではなく、国家の発展の足首をつかんでいる対象となる。

もう一つの例を挙げよう。セウォル号の惨事がユーザーの哀悼と悲しみを超えて怒りを買った根本的な原因は、乗客を見捨て逃げた船長をはじめとするセウォル号事故を起こした船の運航会社の実質的オーナーである兪炳彦一家ではない。それは「国家に対する怒り」である。その国家は、政府の危機対応能力に対する信頼の墜落と国家統合システムの不在・不法・脱法・不正を知っていながら目をつぶった官民癒着、セウォル号事故の報道に関連し「人間的興味」というフレームを多用したメディアなど、総体的な意味における「国家」を言う。

同様に、「2 ちゃんねる」の場合でも「日本人」というアイデンティティの確立やプライドの回復を阻害する対象、すなわち、日本人の誇りと尊厳を取り戻すため清算すべき対象は在日朝鮮人・朝鮮人やメディア、民主党、エリート主義、憲法と戦後民主主義まで幅広い。「2 ちゃんねる」掲示板で在日朝鮮人が不当な特権を享受していると暴露することで、日本の利益を損なうために存在する左派政党やマスコミ、戦後民主主義の不正を告発して社会正義を実現するということである。ひいては、従来の権威と結びづいた知性主義を否定するという点から「2 ちゃんねる」掲示板の思想と体系を動かすコードには「反知性主義」が内在していると考えられる。

山崎(2015)は「2 ちゃんねる」ユーザーは在日特権という物語を通じ、既存の大手メディアに対して挑戦していると、以下のように述べている。

> 在日特権というアジェンダは 2 ちゃんねらーにとって、対抗的メディアの担い手としての彼らの自意識を満足させることのできるアジェンダだった。いわばマスメディアという巨大な敵手に立ち向かうゲリラ戦の戦士、権力批判に尽力するジャーナリストとしてのその姿勢を際立たせ、たとえ一部の保守論壇に特有の権威主義的な議論の中にあっても、彼ら本来の反権威主義的な構えを引き立たせることのできるアジェンだったわけである。(山崎 2015：59)

山崎は、在日特権というアジェンダを「2 ちゃんねる」文化の中に定着させ、反マスメディアフレームにおける反権威主義的な言説実践の一環として作用したと主張している。ある意味で、たとえ在日特権というアジェンダが虚構であっても、実はその裏面には既存の大手メディアのみならず戦後民主主義に対して抑圧された感情が「2 ちゃんねる」掲示板上で噴出されていると言えよう。これらの抑圧された感情が何に由来するかといえば、それは総体的な意味における「国家」に対する感情の発露である。その総体的な意味における「国家」は固定的なものではなく可変的であると考えられる。最近、安倍首相や朴槿恵大統領を擁護し続けてきた「2 ちゃんねる」と「イルベ」掲示板では、安倍首相や朴大統領を非難する書き込みが目立ってきたのがその例である。安倍首相が慰安婦問題と関連し「意外に」融和的な姿勢を見せていたため、ネット上の保守層による「裏切られた」という反応が見られた。同様に、女性部の支援、多文化政策などを標榜した朴大統領の政策とも左へ動かされているため、朴槿恵離れを起こしていると解釈できる。

４．結論に代えて

本研究では、日韓両国の社会問題の一つと言われるようになった、いわゆる「ヘイトスピーチ」言説を「2 ちゃんねる」と「イルベ」掲示板を研究対象として検討を行った。そこから、次のような結果と含意が導き出された。

本研究ではリサーチ・クエスチョン 1 として日韓両国のインターネット掲示板で顕著に現れているネ

タは何であり、ヘイトスピーチの対象が「2 ちゃんねる」と「イルベ」の空間を介し、どのような形で発現されているのかを究明した。リサーチ・クエスチョン 1 の結果から得られた知見は以下の通りである。「2 ちゃんねる」掲示板では「在日朝鮮人」「民主党」「マスメディア」を他者化していた。
「イルベ」掲示板の場合は、ミクロな観点からみると、「左派」「民主党」「全羅道地域」「北朝鮮」を他者化しているが、マクロな観点からみると朴正熙の「経済成長の神話フレーム」と金大中・盧武鉉の「政治民主化の神話フレーム」の間で克明な対峙を示している。アジア通貨危機以来、金大中・盧武鉉政権が 10 年続く中で、韓国経済は低成長、青年失業、所得不平等などが蔓延したため、「イルベ」掲示板のユーザーの間には金大中・盧武鉉政権の時期を「失われた 10 年」と評価していた。その反動として、民主化を打ち出す層に対する強い不信と共に、民主主義を犠牲にしてでも経済を取り戻すという考え方が拡散されつつ、朴正熙の成長神話が一段と広まっていると解釈できる。

次に、リサーチ・クエスチョン 2 では、リサーチ・クエスチョン 1 をもとに、これらの掲示板の思考体系において共有されている背景には、どのようなメカニズムがあるのかを解き明かした。日韓の両掲示板を読み解くキーワードは様々なものがあるが、ここでは「国家」という要因に注目したい。「2 ちゃんねる」と「イルベ」という極右サイトと他者化されている対象との間には「こっち側」と「向こう側」の「境界」が強固であり、その境界に横たわっているのが「国家」である。問題は、極めて一方的に偏った愛国心の発露が反民主主儀的・反知性的な方向へと流れているということである。「2 ちゃんねる」掲示板では、日本における戦後民主主義を否定し、戦後民主主義の価値を擁護する立場に立つ集団を「左翼」「反日」「売国奴」とレッテルを貼って攻撃していた。「イルベ」の場合も、民主化などを否定してまで独裁政権時代へ回帰したいというメカニズムが読み取れた。また、「民主化」や「産業化」という命名の方式を通じて、内集団と外集団の区別がより明確化されたことが分かる。特に、インターネットの空間における断片化された情報の共有は、多様性への不寛容さを高め、内集団と外集団間の境界をより強固なものとし、結果としてヘイトスピーチ現象を煽っていたと言える。

最後に、リサーチ・クエスチョン 1,2 の研究結果を通じて、冒頭に述べた問いに対する見解を模索する。「日韓両国の社会においてこれらの極右サイトの思想と行動をどのような文脈で理解すべきか」という問いについて、若干私見を述べるならば、これらの極右サイトは表面的には民主主義とは相容れない異質の集団のように見えるが、日韓両国の政治社会的な文脈やその中で蓄積されてきたものに対する反動として生まれており、同時に、時代の落とし子とも言える。すなわち、冒頭に述べた一連の問いに答えるために、再帰的(reflexive)な視座からヘイトスピーチ現象と向き合う必要がある。本研究はこのような思考の延長戦上でヘイトスピーチ言説を考察したが、日韓両国の極右掲示板から右傾化といった考えの根底にあるものを解き明かすことには限界があった。

今後では日韓社会が直面している多様な社会問題意識をより厚く、詳細に読み解きながら、日韓両国のヘイトスピーチ言説を考察する必要があるだろう。また、先行研究によると思春期・青春期にバブルの崩壊や IMF 経済危機を経験した若者たちの右傾化が目立つようになったという。それを考慮すると、高度経済成長からの恩恵を受けた世代とその恩恵を受けられなかった層との境界線に「世代の区分」という要因が大きく関わっていると考えられる。そこで、社会流動化の過程で派生した「世代間の格差」という要因が、今のネット右翼の思考体系とヘイトスピーチ言説にどのような影響を及ぼしたかを検討することは、重要な課題であるが本研究では扱っていない。この点は研究の余地があるだろう。

参考文献

日本語文献

・ウヴェ・フリック著,小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳(2002)『質的研究入門：「人間科学」のための方法論』春秋社
・ウンベルト・エーコ著,池上嘉彦訳(1996)『記号論Ⅰ』岩波書店
・小倉紀蔵・大西裕・樋口直人(2016)『嫌韓問題の解き方：ステレオタイプを排して韓国を考える』朝日新聞出版
・高原基彰(2006)『不安型ナショナリズムの時代-日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社
・野間易通(2015)『「在日特権」の虚構: ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』河出書房新社
・樋口直人(2014)『日本型排外主義：在特会・外国人参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会
・樋口直人(2015)「日本型排外主義：在特会・外国人参政権・東アジア地政学」『大原社会問題研究所雑誌』675 号 86-90

・古谷経衡(2013)『ネット右翼の逆襲-「嫌韓」思想と新保守論』 総和社
・堀田義太郎(2014)「ヘイトスピーチ・差別・マイノリティ」「女性・戦争・人権」学会2014年度大会シンポジウム「表現・暴力・ジェンダー」報告資料 1-5
・師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波新書
・安田浩一(2012)『ネットと愛国-在特会の「闇」を追いかけて』 講談社
・山崎望(編)(2015)『奇妙なナショナリズムの時代：排外主義に抗して』岩波書店
・余命プロジェクトチーム(2015)『余命三年時事日記』青林堂

韓国語文献

・강정석(2013)「일간베스트저장소, 일베의 부상」『문화현실분석』75 호 273-302［Kang, Jung-Suk(2013)「日刊ベスト貯蔵所、イルベの浮上」『文化現実分析』75 号 273-302］
・ 김학준(2014) 인터넷 커뮤니티 ‘일베저장소’에서 나타나는 혐오와 열광의 감정동학」『서울대학교』석사논문 ［Kim, Hak-June(2014)「『日間ベストストア』で現れる嫌悪と熱狂の感情動学」ソウル大学校修士論文(未刊行)］
・김효진(2011)「기호로서의 혐한과 혐중-일본 넷우익과 내셔널리즘」『일본학연구』 33호 31-56 ［Kim,Hyo-Jin(2011)「嗜好としても『嫌韓』と『嫌中』-日本のネット右翼とナショナリズム」『日本学研究』33号 31-56］
・나영(2016)「한국 사회 혐오표현의 배경과 양상-2000 년대 이후를 중심으로」서울대학교 인권센터 주최『혐오표현의 실태와 대책이라는 주제로 토론회보』(2016 년 1 월 28 일) 13-28 ［Na,Young(2016)「韓国社会嫌悪表現の背景と様相-2000 年代以降を中心に」ソウル大学校人権センター主催『嫌悪表現の実態と対策に関する討論会プロシーディング』（2016 年 1 月 28 日）13-28］
・박가분(2013)『일베의 사상』오월의 봄［Park,Ga-Bun(2013)『イルベの思想』五月の春］
・ 박정순(2009)『대중매체의 기호학』커뮤니케이션 북스［Park,Jung-Sun(2009)『大衆媒体 の記号学』コミュニケーション・ブックス］
・박수옥(2009)「일본의 혐한류와 미디어내셔널리즘-2ch 와 일본 4 대 일간지를 중심으로」『한국언론정보학보』47 호 120-147［Park,Su-Ok(2009)「日本における嫌韓流とメディア・ナショナリズム-2ch と日本 4 大日刊紙を中心に」『韓国言論情報学報』47 号 120-147］

ウェブサイト・新聞

・デーリー韓国「人格殺人、ヘイトスピーチ(Hate Speech)」2016年4月30日
(http://daily.hankooki.com/lpage/society/201604/dh20160430080342137780.htm,2016年9月8日閲覧）
・東亜日報「どうして国家情報院は今日のユーモアサイトにスレを立てるのだろうか」2013年5月10日
(http://news.donga.com/InfoGraphics/View/3/all/20130509/55044420/9,2016年1月10日閲覧)
・東京ブレイキ ング・ニュース「2 ちゃんねるの高齢化、老舗サイトが続々閉鎖...WEB 業界に異変が」2015 年 12 月 11 日
(http://n-knuckles.com/media/mass/news002128.html,2016 年 1 月 10 日閲覧）
・『週刊京郷』「日本のネット右翼を見れば韓国のイルベの未来が見えてくる」1060号(2014年1月21日)
・ニールセン・コリアン・クリック（Nielsen Korean click） 2015 年
・書き込み数ランキング・インターネットホームページ「書き込み数ランキング」
(http://merge.geo.jp/history/count7r/?date=2015-11-01&mode=r,2016年1月10日閲覧）